

人と生活に向き合う政治

東京都第29区総支部長（荒川区全域・足立区西部）

木村 たけつか

元衆議院議員



昨年12月、立憲民主党東京都第29区において、次期衆議院議員選挙における公認内定し総支部長に選任されました。私、木村たけつかは再び、人と生活に向き合う政治の実現に向けて邁進してまいります。
今後とも皆さまのお力添えのほど宜しくお願い申し上げます。

私は、地域で商売を営む両親のもとで育ちました。街の小さな商店や小規模機事業者が安心して事業を続けられる地域社会、そして真面目に働くひとが報われる国でなければならないとの思いが、私が政治を志した原点です。行き過ぎたグローバル化や新自由主義の弊害で、社会のあらゆる場面での格差が顕著になり、社会の分断が生まれつつあることに大きな危機感を抱いております。多様な生き方が尊重され、一人ひとりの居場所がある社会、額に汗して働くひとが活躍できる社会を、もう一度取り戻すべく、新しい共生社会の在り方を政治の現場から追及していきたいと決意しています。

103万円の壁

「103万円の壁」については、合理的・抜本的な改革に取り組むべきだ。所得税の課税最低限については基礎控除と給与所得控除の最低保障額をそれぞれ10万円ずつ引き上げて、123万円まで引き上げることとされた。それ自体は評価できるが、給与所得控除の引き上げはサラリーマン等の給与所得者だけにしか適用されず個人事業主やフリーランスなど働き方が多様化する中では不十分であり、実施するのであれば基礎控除の引き上げに一本化すべきである。

106万円の崖

「106万円の崖」は、本人の手取り自体は減らない。しかし社会保険料の負担が生じる「106万円の崖」「130万円の崖」は本人の手取りが減ることが深刻である。立憲民主党は最も深刻な「130万円の崖」に着目して、手取り減を給付で埋める法案を国会に提出。

130万円の崖

裏面参照

学生の103万円の壁

学生アルバイト就労支援問題について、特定親族特別控除を創設し、学生の給与収入が150万円に達するまでには控除額を満額適用するとともに、その後も段階的に減らすことで解消することは概ね評価できる。ただし、根本的には、学生が学業に専念できる環境を整備することが何より重要であり、併せて高等教育無償化、給付型奨学金の拡充を実現するべきである。

東京都
29区

荒川区全域・足立区西部

※足立区西部はこちら！⇒伊興1～5丁目、伊興本町1・2丁目、入谷1～9丁目、入谷町、扇1～3丁目、興野1・2丁目、小台1・2丁目、加賀1・2丁目、栗原3・4丁目、江北1～7丁目、古千谷1・2丁目、古千谷本町1～4丁目、血沼1～3丁目、鹿浜1～8丁目、新田1～3丁目、椿1・2丁目、舎人1～6丁目、舎人公園、舎人町、西新井1～7丁目、西新井栄町3丁目、西新井本町1～5丁目、西伊興1～4丁目、西伊興町、西竹の塚1・2丁目、東伊興1～4丁目、堀之内1・2丁目、宮城1・2丁目、本木1・2丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町、谷在家1～3丁目



久家しげる荒川区議・
島頭あきゆき荒川区議・
花見たけし北区議と共に



銀川ゆいこ都議・
おぐら修平足立区議と共に

■木村たけつかプロフィール

昭和46年7月9日、神奈川県川崎市に小さな肉屋の長男として生まれる。小中学校時代は野球少年。高校時代はバレーボール部で活躍。持ち前の体力を活かし、住み込みで新聞配達・牛乳配達をしながら大学浪人生活を送った。奨学金貸与で日本大学経済学部入学。
在学中に西川太一郎元衆議院議員（前荒川区長）秘書となる。

■墨田区議会議員2期・衆議院議員1期

■趣味：喫茶店でコーヒーを飲むこと

■好物：納豆と卵と玄米

後援会・
ボランティア
募集中！



<https://www.kimutake.jp/>

